

【中学生議会 教育長答弁様式1】人と文化を育むまち①

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	かざま 風間 あさみ 朝水議員
発言順(通し番号)	NO:10	所管課・室名	図書館交流課

質 問 事 項	図書館の利用にかかわって
具 体 的 な 提 言	色んな種類のパンフレットの作成、学校でほしい資料についての紹介

【教育長答弁】

かざま
風間議員のご質問にお答えします。

まず、「人と文化を育むまちグループ」の皆さんに全体にかかわるお話をさせていただきます。

安曇野市教育委員会では、市長と教育委員とが総合教育会議という場で、安曇野市のこれからの教育のあり方を話し合い、教育大綱を定めました。

そして、本年4月に、こういう子どもに育ててほしい、こういう子どもに育てたいという目標を決め、ステッカーにして掲げました。

それがこれです。

「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“たくましい安曇野の子ども”」

この「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる」の言葉は、安曇野市出身の文芸評論家・作家の臼井吉見さんが、今から30年ほど前に中学生に語った言葉です。

臼井さんは、大きなジェット旅客機が飛び立つときには、ものすごい音とエネルギーを一気に放出しなければならないが、そういう力をたくわえるには、子どもの時、特に中学生時代にうんと体を動かして、うんとものを考える。

ものを考えるためには、うんと本を読まなければならない。

友だちといろいろなことについて、たっぷり話し合わなくてはいけない。

そして、いつも心を開いて深く感ずる。これが一番大事だと述べています。

私たちは、みなさんにこのような「たくましい安曇野の子ども」に育てて欲しいと願って、からだを動かし、頭で考え、心に感ずる体験がたくさんできる環境を整える努力をしています。

しかし、いくらよい図書館ができて、たくさん本があっても活用しなければ何にもなりません。

利用者である中学生の目線での提案ありがとうございます。

【中学生議会 教育長答弁様式1】人と文化を育むまち②

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	だ から 寶 愛 弥 心 議員
発言順(通し番号)	NO:11	所 管 課 ・ 室 名	文化課

質 問 事 項	古民家での生涯学習について
具 体 的 な 提 言	古民家の貸し出しと送迎バスの手配をお願いしたい。

【教育長答弁】

次に、^たから 寶議員のご質問にお答えします。

空き家となっている古民家の活用についてのご質問をいただきました。

山間地の中には、人がほとんど住まなくなった集落もあり、立派な古民家や、かつて賑わった神社がさびれた姿になっているのを見かけます。

議員のご質問の背景には、高齢化が進み若い人が減少して活気が失われてく地域の将来を憂い、どうにかしたいという想いや願いが背景になると拝察します。

古民家は安曇野の大切な文化遺産で、これを活用したいという考えは、とてもよく理解でき、古民家を使った地域おこしができれば、素晴らしいことだと思います。

現在、安曇野市では「協働のまちづくり」を積極的に進めています。

行政だけに任せるまちづくりではなく、同じ思いをもつ市民や団体が協力し合い、主体的に目的に向かって取り組みを行い、行政と対等な立場で連携を図るものです。

議員のアイデアの実現は、まずは地元の小さな活動から始めてみてはどうでしょうか。

それぞれの地域には、地域を元気にして活性化を図ろうと考える皆さんがいます。

公民館活動もそのひとつですし、学校の地域学習の中でそうした皆さんの取り組みを学び、実践の体験をするのもよいかもかもしれません。

こうした活動や学びの中で、空き家古民家の活用案を話し合い、小さな実践を積み重ねていくのです。うまくいったらそれを広げて行く。

その中で行政がお手伝いできることがきっと出てくるはずですよ。

詳しい内容については、教育部長がお答えします。

資料

国 重要文化財 民家

番	文化財名	所有者		活用等
1	曾根原家住宅	個人	穂高有明	公開

国 登録有形文化財 民家

番	文化財名	所有者		活用等
2	飯田家住宅 主屋他	個人	豊科高家	貸店舗※
3	旧高橋家住宅主屋他	市	穂高北穂高	美術館併設
4	宮澤家住宅主屋他	個人	三郷明盛	所有者が居住
5	中村家住宅主屋他	個人	三郷温	ケアハウスとして活用

市 指定文化財 民家

番	文化財名	所有者		活用等
6	旧小穴家住宅	市	三郷温	移転復元し貸店舗※

その他

番	文化財名	所有者		備考 活用等
7	大庄屋 山口家	個人	堀金烏川	県史跡：庭園
8	本陣等々力家	個人	穂高	市指定：長屋門 ビヤクシン他

【中学生議会 教育長答弁様式1】人と文化を育むまち③

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	辻 真白議員
発言順(通し番号)	NO:12	所管課・室名	文化課

質 問 事 項	美術館や博物館の利用について
具 体 的 な 提 言	休日や夜のイベントを充実

【教育長答弁】

最後に、辻議員のご質問にお答えします。

美術館や博物館の運営についてご意見をいただきました。

安曇野市には多くの美術館や博物館があります。安曇野市が運営する市立のものが9館あり、私立のものを含めると20館ほどにもなります。

これほどまで美術館や博物館が多いというのは、全国的にも珍しく安曇野市の特徴でもありますし、そこに収められた美術作品や歴史資料がこの地に豊富にあることを示しています。

文化芸術は私たちに喜びや感動、心の安らぎをもたらし、人生にうるおいを与えてくれるものです。また、豊かな感性や人間性を育みます。

安曇野市も「文化のかおるまち」を築くことを目標に計画を立て、文化振興の事業を行っています。安曇野市の文化を発信したり、活性化につなげたりするためには、行政だけでは推進ができず、一人でも多くの市民の協力が必要なのです。

辻議員がおっしゃるように中学生の皆さんが、美術館や博物館でのボランティアスタッフとして運営に参加したり、コンサートなどのイベントを行うのは、企画運営といった事業の裏側を知るとともに、皆さんの日ごろの活動の成果を発表する機会となる、とてもよい活動だと思います。

若い皆さんに安曇野市の文化に興味を抱いていただくことは、安曇野市が将来に亘って「安曇野らしさ」を失わず、まちづくり、人づくりに繋がることでしょう。

ご意見をいただき、ありがとうございました。

人と文化を育むまちグループの、詳しい内容については、担当部長よりお答えします。

【中学生議会 部長答弁様式1】人と文化を育むまち①

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	かざま 風間 あさみ 朝水議員
発言順(通し番号)	NO:10	所管課・室名	図書館交流課

質 問 事 項	図書館の利用にかかわって
具 体 的 な 提 言	色んな種類のパンフレットの作成、学校でほしい資料についての紹介

【部長答弁】

かざま
風間議員のご質問にお答えします。

昨年度、公共図書館のサービスの向上を図るため実施した小中学生へのアンケートでは、「読書が好きですか。」という質問に、小学生、中学生ともに90%以上が「好きです」との答えでしたが、図書館を「毎日使う」から「月に1回ぐらい」という人が、約30%で、議員がおっしゃるように公共図書館を使ってくれる児童・生徒の皆さんがもう少しあったらいいと思います。

教育長からお話があったように、図書館を上手に使うことで、いろいろな可能性が広がります。

そのためには、まず図書館に来てもらわなくてはなりません。

議員の一つ目のご提案、「図書館の宣伝の強化」は、とても大切なことです。

図書館では、毎年9月に「図書館フェスタ」という図書館のお祭りをやって、普段、図書館に足を運ばない人たちにも気軽に参加していただけるよう、いろいろなイベントを行っています。

また、本のパンフレットというご提案ですが、公共図書館では、幼児用、小学校低学年用、中学年用の図書館おすすめブックリストを作っており、本年度は、高学年用を作成しています。

このブックリストは、小中学校へも提供することを考えていくとともに、毎月発行している図書館だよりの小中学生版を学校と連携しながら作成し、配ることも考えていきます。

二つ目の「学校の勉強にあわせた資料等を増やすこと」についてです。

図書館では、「課題図書」、「自由研究」などの企画コーナーや、「文化祭」、「選挙」などのテーマで本を飾るコーナーを作って資料の紹介をしています。

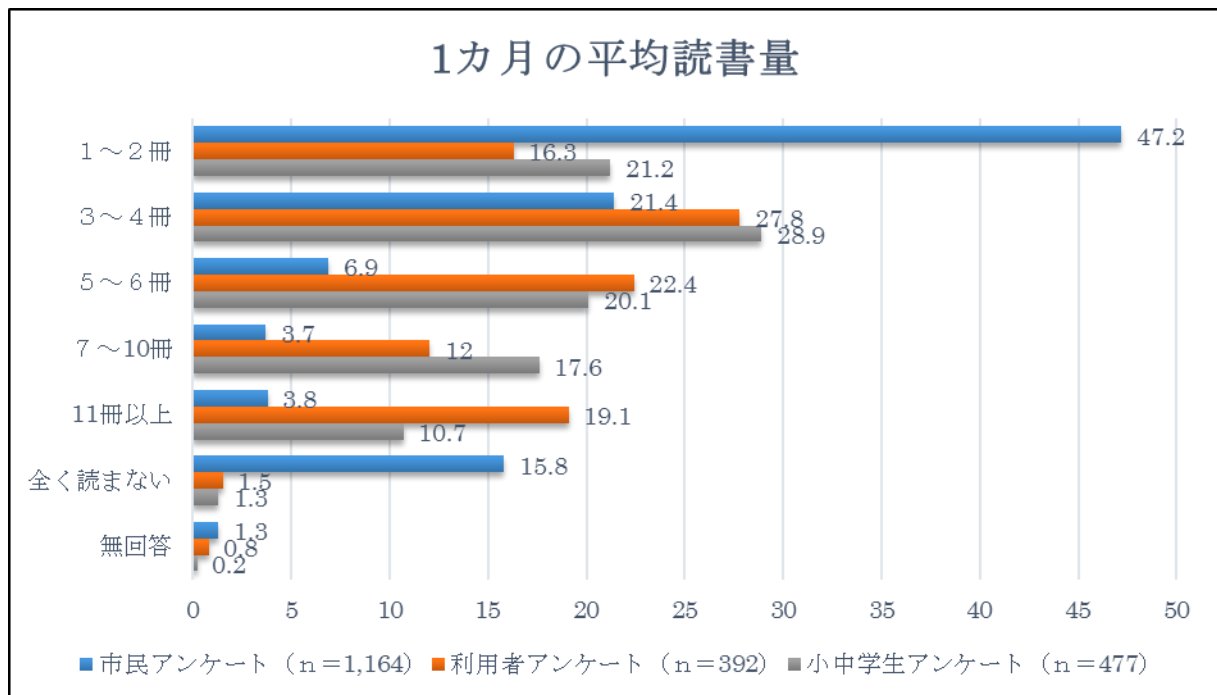
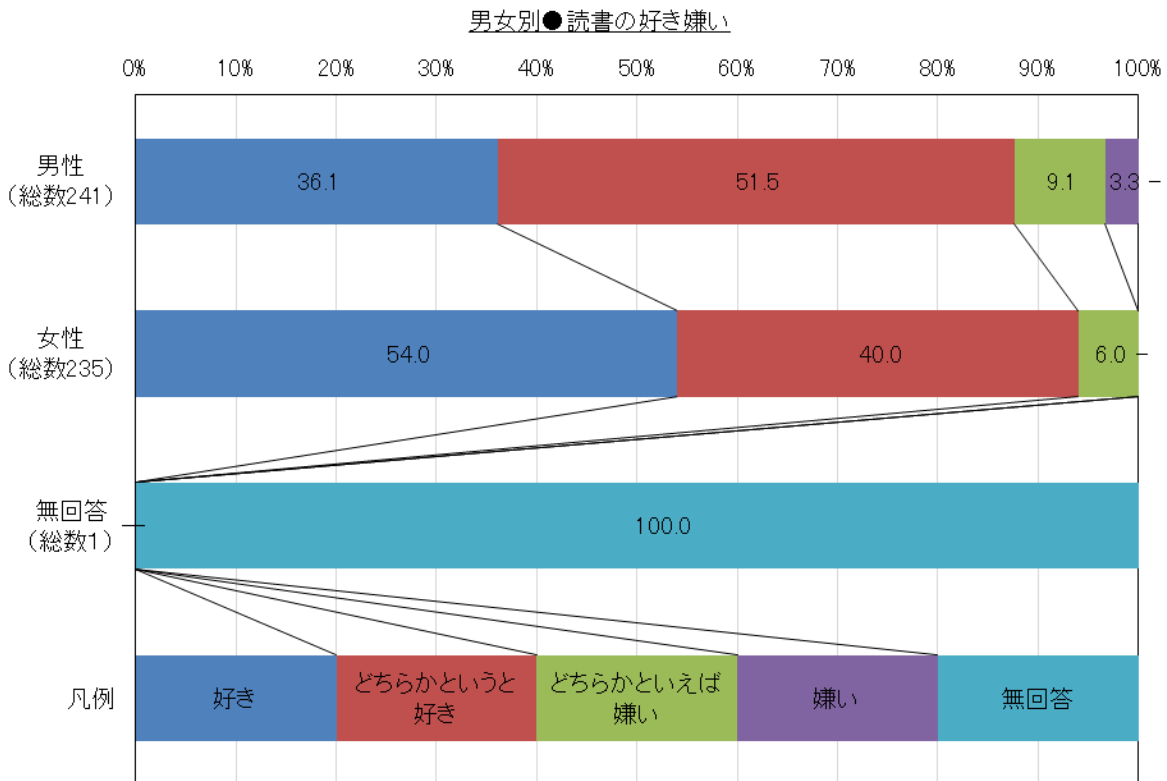
また、公共図書館では、学校の図書館の連携を深める取り組みとして、学校の調べ学習専用の本をそろえています。

学校の図書館に無く、公共図書館にある本については、学校の先生から要望があれば、学校に届けるということもして、平成 28 年度は、小学校中学校併せて 1,970 冊の利用がありました。

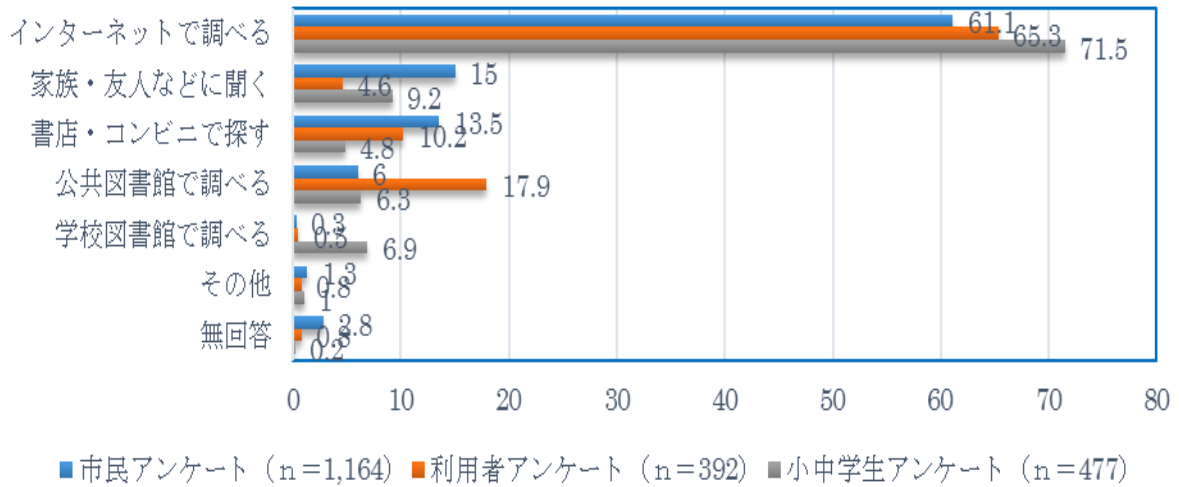
学校の図書館ない本などの要望や、少しでもわからないことがありましたら、学校の図書館の先生に気軽に相談していただければと思います。

【資料等】

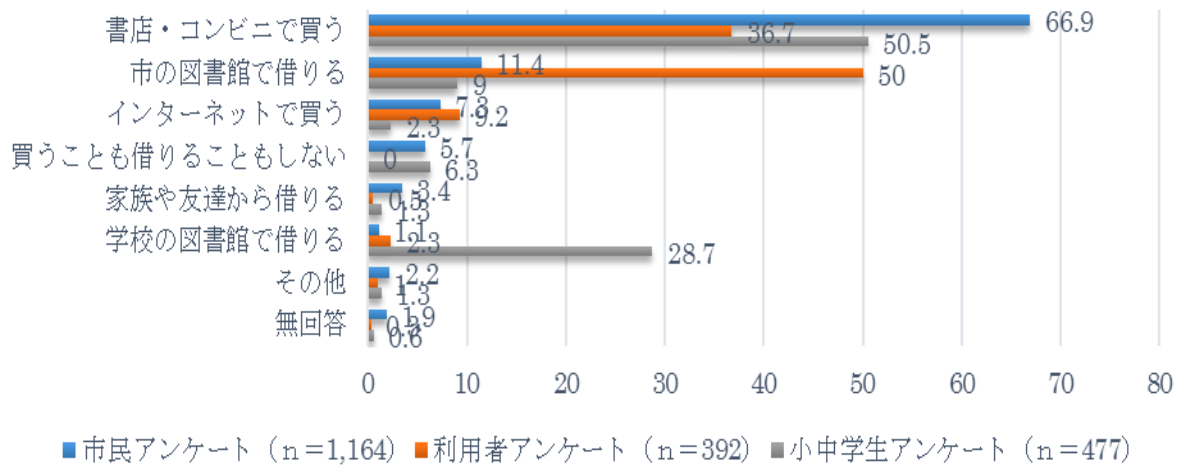
○ 平成 28 年度公共図書館についてのアンケート（抜粋）



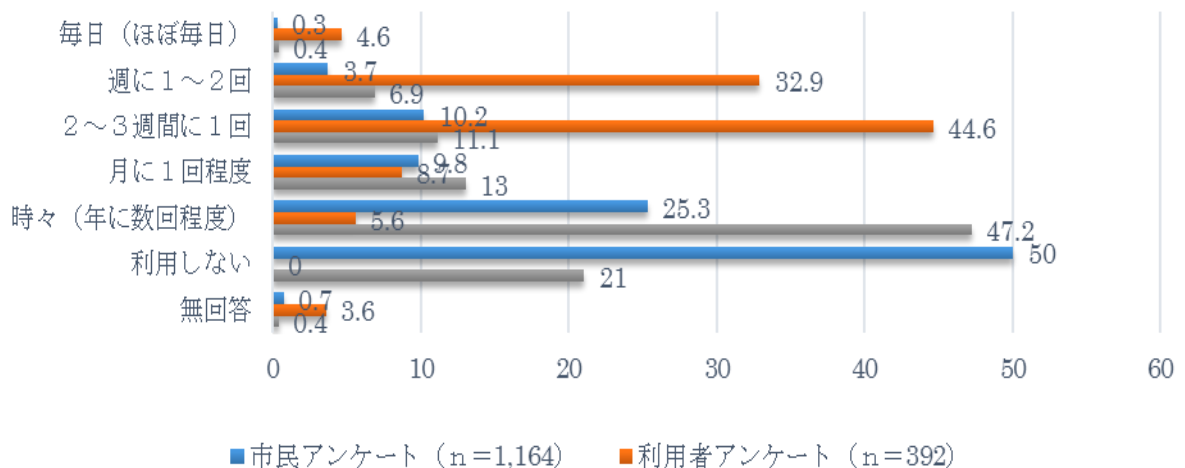
知りたいことの入手方法

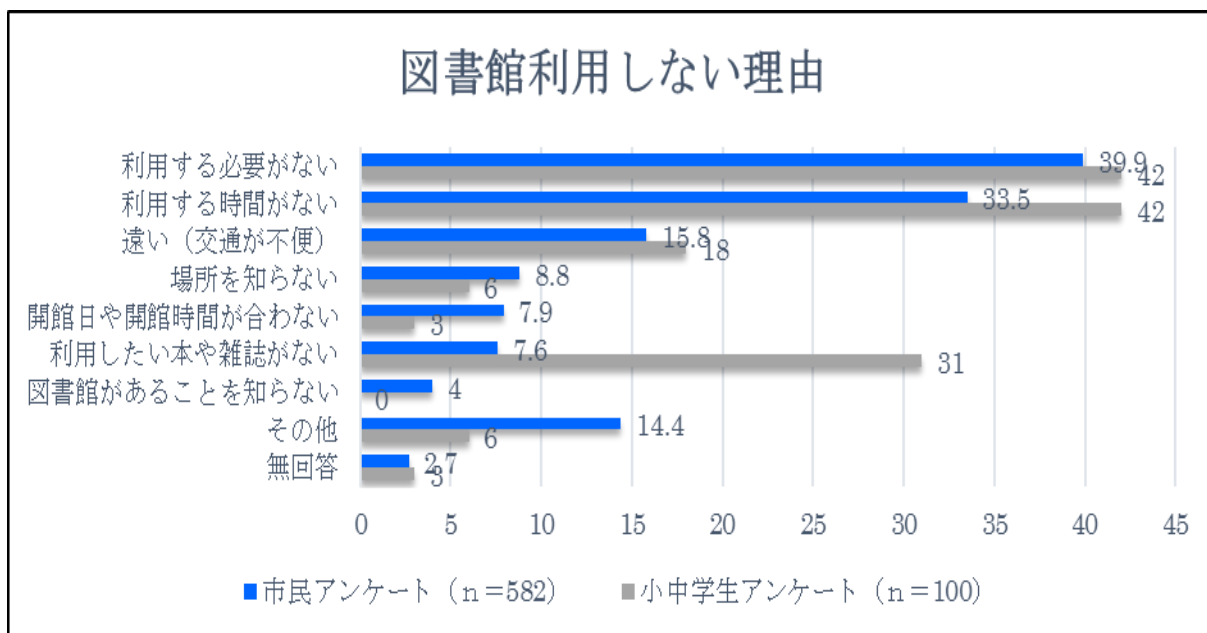


本の入手方法



公共図書館の利用頻度





○ 学校配本一覧 (平成 28 年度)

学校名	利用回数	一般図書	郷土資料	洋書	大活字	文庫	児童図書	絵本	紙芝居	洋書絵本	雑誌	AV資料	ネット	ディジー	他	計
豊科南小学校	15	1					107	2	10							120
豊科北小学校	8						95		1							96
豊科東小学校	28	21				1	260									282
穂高南小学校	17	8		1			103	20								132
穂高北小学校	5		2				69		1							72
穂高西小学校	1						29									29
三郷小学校	46	14	27				133	16	44		1					235
堀金小学校	24		1				65	8	1							75
明南小学校	17	18					168	23								209
明北小学校																0
小計	161	62	30	1	0	1	1,029	69	57	0	1	0	0	0	0	1,250
豊科南中学校	51	110	28			5	68	10			13					234
豊科北中学校	1		6													6
穂高東中学校	20	80	17		2	4	32	20	9							164
穂高西中学校	5	36					81				8					125
三郷中学校	3						2	2	4							8
堀金中学校	21	14	3				91	25								133
明科中学校	6	21				1	26	2								50
小計	107	261	54	0	2	10	300	59	13	0	21	0	0	0	0	720
合計	268	323	84	1	2	11	1,329	128	70	0	22	0	0	0	0	1,970

【中学生議会 部長答弁様式1】人と文化を育むまち②

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	だから 寶 愛 弥 心 議員
発言順(通し番号)	NO:11	所 管 課 ・ 室 名	文化課

質 問 事 項	古民家での生涯学習について
具 体 的 な 提 言	古民家の貸し出しと送迎バスの手配をお願いしたい。

【部長答弁】

次に、^{だから} 寶 議員のご質問にお答えします。

まず、安曇野市の古民家を含む空き家対策の現状についてご説明いたします。

現在、安曇野市内では多くの民家が空き家となっています。平成28年度調査では、236戸の空き家が報告されていて、人口減少が避けられない見通しの安曇野市にとっても、空き家対策は大きな課題となっています。

一方、行政で関わっている文化財に指定されている古民家は、保全や利活用が図られているものがあります。

一例を申し上げますと、国重要文化財「曾根原家住宅」では、所有者協力いただき、「昔の暮らし体験講座を」開催しています。囲炉裏を囲み、戦時中の体験談を講師から聞いたり、麦わらを使った「ぎっちょかごづくり」など作ったりしています。昔の遊び体験を行っています。

しかし、指定になっていない多くの空き家古民家の活用は進んではいません。

その背景には、空き家が個人の所有物であり、いろいろな法律や条令で個人の財産としての義務や権利が定められているためです。

安曇野市では、平成 28 年度より官民協働で「安曇野市空き家バンク」を開設し、空き家対策に乗り出していますが、空き家の利活用への取り組みは始まったばかりです。

他方、全国的には古民家などの歴史的資源を活用したゲストハウスやレストラン等が開業され、地域の活性化に繋がる事例も増えてきています。

議員の提案は、安曇野の文化資源を使った将来性のあるものですが、空き家の貸し出しやバスの運行だけでは、おそらく人は集まりません。

プランの中に、アニメやコスプレのイベントとありますが、どう仕掛けていけばよいのか、行政としては取り組みにくい内容です。

教育長から「協働のまちづくり事業」を活用してみたらどうか、との答弁がありました。まずは地域の人たちを巻き込んだ活動を始める中で、行政との連携のプランを練っていただくことを期待したいと思います。

資料

国 重要文化財 民家

番	文化財名	所有者		活用等
1	曾根原家住宅	個人	穂高有明	公開

国 登録有形文化財 民家

番	文化財名	所有者		活用等
2	飯田家住宅 主屋他	個人	豊科高家	貸店舗※
3	旧高橋家住宅主屋他	市	穂高北穂高	美術館併設
4	宮澤家住宅主屋他	個人	三郷明盛	所有者が居住
5	中村家住宅主屋他	個人	三郷温	ケアハウスとして活用

市 指定文化財 民家

番	文化財名	所有者		活用等
6	旧小穴家住宅	市	三郷温	移転復元し貸店舗※

その他

番	文化財名	所有者		備考 活用等
7	大庄屋 山口家	個人	堀金烏川	県史跡：庭園
8	本陣等々力家	個人	穂高	市指定：長屋門 ビヤクシン他

【中学生議会 部長答弁様式1】人と文化を育むまち③

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	辻 真白議員
発言順(通し番号)	NO:12	所 管 課 ・ 室 名	文化課

質 問 事 項	美術館や博物館の利用について
具 体 的 な 提 言	休日や夜のイベントを充実

【部長答弁】

最後に、辻議員のご質問にお答えします。

議員の「市内には、美術館や博物館が沢山あるのに、訪れる市民や観光客が少ない」と感じられたご意見は、市の美術館や博物館の抱える課題の一つです。

これは一つの施設だけで解決できる問題ではありませんので、これまでも「安曇野アートライン」の活動のように、安曇野市・池田町・松川村・大町市・白馬村が連携して、美術館の活性化を図ってきました。

「安曇野アートライン」の活動の一環として「夜のミュージアム」と名付け、夜間の開館を同時期に行うということも行っています。このイベントでは、美術館の夜間開館だけでなく、コンサート等を合わせて行い、多くの来館者があります。

また、安曇野市内の美術館・博物館も実行委員会を作り、連携して事業を行っています。各施設を巡るスタンプラリーのような取り組みに、ワークショップや展示解説を合わせたイベントを行ってきました。

議員が提案された中学生の皆さん方によるボランティア活動やコンサートの実施は、とてもありがたいアイデアだと思います。美術館・博物館の活性化のためぜひご協力をお願いします。

温泉施設やお土産物屋さん等の観光施設と文化施設の連携は、これからの課題だと思います。これまでも商工会や観光協会と協力した事業は行ってきていますが、文化を起点としたまちづくりとなるような工夫を一層進めたいと思います。

お手元にお配りした年間スケジュール表をご覧ください。これは皆さんの先輩が、中学生議会で提案されたものです。春に皆さんにお配りしたのですが、見ていただいていたか？

議員は、小中学生の入館料は無料であるが、大人は有料であることにも触れられました。

文化課では来年度、小中学生の皆さんを連れた保護者1名の安曇野市立の美術館・博物館9館の入館料を無料とするパスポートの発行を考えています。

ぜひ家族で訪れていただき、文化施設に親しんでいただきたいと思います。

また、学校の授業での美術館・博物館の利用を進めていただきますよう、学校の先生方にもお願いしていきたいと思います。

これからも美術館や博物館を訪れていただき、安曇野について深く知っていただきたいと思います。